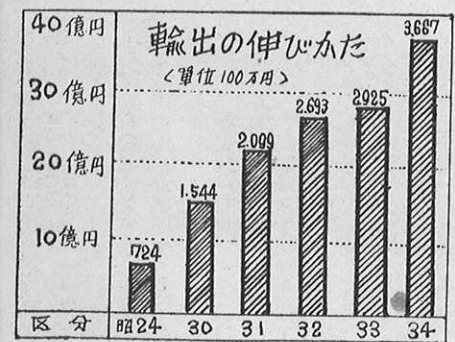


伸びる食料品や化学製品

市場調査も積極的に

民間貿易が再開された昭和二十四年の輸出額は七億二千四百万円であったが、その後昭和三十三年の水俣港の貿易港指定、三州沖繩定期航路の開港などもあつて逐年増大し、昭和三十四年には三十六億六千七百万円に及んでいる。また輸出品目も多様化し、仕向地も拡大されている。品目別には繊維、化学製品が輸出額の過半を占めており、特に化学製品、木製品、近年は食料品の伸び方が大きく、仕向地別でははじめのアメリカ市場中心から、今日ではアジア貿易の比重が大きくなつていくことが注目される。しかしながら、解決を要する問題も少なくない。その主なものは次のとおりである。

- (1) 動物検疫所、輸出品検査所、工業品検査所が設置されていない。また有力な貿易商社がない。
- (2) 中小企業製品に優秀なかつ量産能力のあるものが少ない。また業界の海外市場についての調査が充分でなく、PRも足りない。



二百万円と農産物、林産物を中心に大幅に増加しているが、サイド付き手形決済に不慣れた資金力や市場、市況に対する認識の欠如、あるいは往々にみられる受注契約の不履行などから商談の不成立、信用低下を招いている例が少なくない。また、業界のPR不足も反省されねばならない。

今後は重点をアジア貿易の促進に置くとともに、恒常的市場である対米貿易の助長に努め輸出目標は昭和三十三年二十九億二千五百万円を四十年には二倍以上の六十一億円、四十五年には八十五億

貿易振興

円とし、このため次の施策を推進する。

- 生産指導の強化
 - 技術指導、設備の近代化、融資の促進をはかるとともに、試作見本の買上は、紹介を実施して新規有望商品の発見、育成につとめる。
- 市場の調査開拓の推進
 - 各地で見本市を開催するとともに市場の調査、周知につとめる。また国内の各種見本市、展示会に積極的に参加し、さらに産業館において貿易実務の指導や代行をする。
 - 三角港に動物検疫所、輸出品検査所、工業品検査所の出張所(支所)の設置、水俣港の税関出張所の支署昇格を促進する。
 - また八代港の外港整備とあいまつて貿易港の指定、関連施設の設置促進をはかる。

さらに地元商社、貿易団体の育成、あるいは誘致に努め直接貿易の増大を促進する。

国内販路を拡張する

- 流通観測の強化
 - 出先物産館の機能を強化して、市場市況の動向調査、連絡の充実をはかる。
- 市場性ある商品の生産指導
 - 需要地間屋の意見、優良県外品などによって、市場性ある商品の生産指導を行う。
- 出荷金融のあつ旋

信用保証制度の活用とあいまつて、保証融資の促進、長期低利な中小専門政府関係金融機関からの融資あつ旋につとめ、資金面からくる商談の不成立、契約違反を極力防止する。

宣伝紹介の強化

博覧会、展示会への参加、物産展、見本市の開催、需要地、産地業者相互の交流促進につとめる。

(三〇頁より)

輸送能力を上げるとともに、貯炭融資、拡張資金のあつ旋に努めて、金融の円滑化をはかる。

石灰石

カーバイト、セメント工業の発展によつて需要は増大してきているが、一鉱区の面積が狭く、かつ錯綜しているものが多いので、鉱区との交換分合などによる経営の効率化を促進するとともに、海浜鉱区の採掘については、漁業との紛争を生じないよう指導調整に努める。

陶石

毎年順調に伸びているが、採掘箇所が漸次深部に移行し坑道が伸びて採掘条件が悪化してきている。

このため採掘技術の改善指導を行なうとともに設備の改善整備を助長促進する。また、廢石、下級品の利用の研究に協力する。

石材

公共事業などの伸びに伴つて生産は増大しており、産地としてまとまつているので、共同化を促進するとともに、大口受注など販路のあつ旋を行なう。

- ☆ 最近の観光の大衆化はめざましく「第四次産業」とまでいわれる有様で、観光人口の伸びは生活水準の伸びを上廻り、観光客の往来は年々増加の一途をたどつてい
- ☆ 本県は、阿蘇と雲仙天草の両国立公園をはじめ、七つの自然公園三十余の温泉群に恵まれているほか、急流球磨川、菊池水源、熊本城、不知火など、山・川・海に多彩な観光資源をもつてい
- ☆ これらの観光地を訪れる観光客は昭和三十四年には、年間六百万人を超え、その観光消費額も三十三億四千万円と推定され、昭和二十五年に對し、いずれも二倍強である。

春、天草、人吉、日奈久、水俣は夏、秋、山鹿は秋の利用者が多い。

(1) 観光施設に対する投融资が少ない

国、公共投融资は、国立公園の施設整備ユースホテル建設補助、国民宿舎建設融資、国際観光ホテル建設融資がある程度で、本県の場合、公共事業投資額累計は、県単事業を含めても九

(2) 観光ルートの整備が遅れている

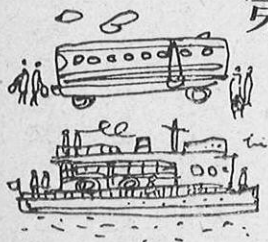
九州横断道路の建設(東京オリンピックまで)によつて、別府-阿蘇-熊本-雲仙を結ぶルートは国際的なロードパークとして一躍脚光を浴びているが、反面、県内外の主要観光地を結ぶ地方観光ルートは、その設定、整備が遅れている。

(3) 観光宣伝が不足している

最近のアンケート調査の結果、「優れた観光資源をもちながら、全国的に宣伝不足である。」という意見や、地方的には名古屋より以東からの観光客

観 光

第四次産業としてクローズアップ



活発にルートの開発や誘致宣伝も

県内観光地を訪れる県外客の流れは、別府-阿蘇-雲仙の国際観光ルートに乗つて往來する全国観光客と、城北、城南の温泉地へ行楽旅行に繰り込む北九州を中心とした九州の観光客が大きな流れとなつてい

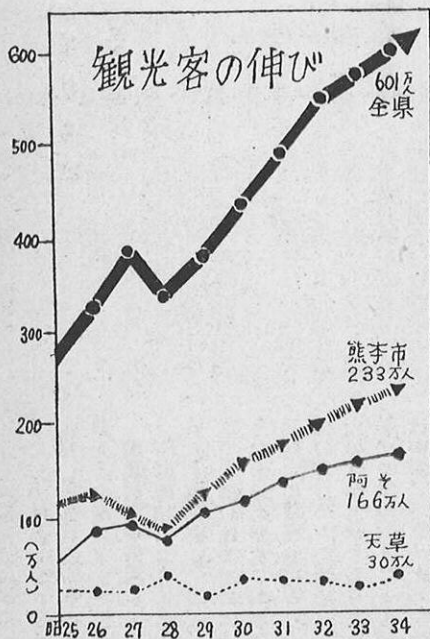
昭和三十四年についてみれば、主要観光地別には、熊本市の二百三十三万人、阿蘇山の百六十六万人が圧倒的に多く、全県観光客の六七%を占めている。

温泉地では、日奈久(四十九万人)、人吉(三十万人)、杖立(二十五万人)、玉名(二十四万人)が多い。

天草は優れた海洋景観、史蹟等の多様な観光資源に恵まれ、キリシタン殉教、カラユキさんなどのエキゾチックな情緒にひかれる県外観光客は少なくないが、その数は年間三十万人程度にとどまつており、殆んど伸びていない。

次にこれを季節別にみれば、全県では、春(三-五月)が三十四%で最も多く、冬(一-二月)、秋(九-十一月)がともに二二%で、これにつき、夏(六-八月)が一九%で最も少なくなつてい

地域別には、熊本、阿蘇、玉名は



(註) 県観光課調べ
昭和28年の減少は阿蘇山の
大爆発および水害による。